

第1回 ～つながりあう・ささえあう福智町を目指して～

福祉入門教室

主催：飯塚市社会福祉協議会
福智町社会福祉協議会



第2日目 福智町の地域福祉

芦馬謙二氏（福智町人権と福祉のまちづくり総合計画推進委員長）

「人権と福祉のまちづくり」を考えるうえでは、日本国憲法、戦後の福祉の歴史、児童・高齢者の権利擁護、障害者権利条約等、これらのことを基本におき推進されなくてはいけないという話をされました。

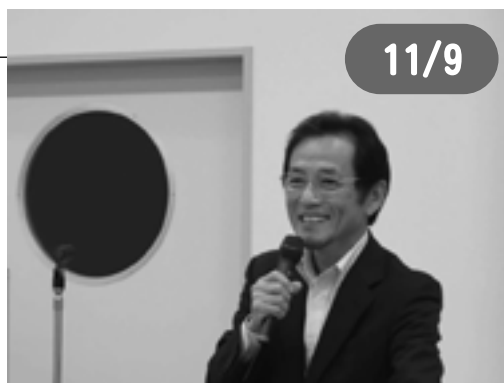
また福智町で策定されている人権と福祉のまちづくり総合計画の詳しい内容をお話いただき、これからは、待っているだけでは何も進まない。「住民相互がつながりあって、協力・支え合いのもと、活動を起こし、地域づくりを進めていく必要がある」とのことを、分かりやすく説明されました。

第3日目 「障害」をもつ人と・地域で・共に

高石伸人氏（NPO法人ちくほう共学舎「虫の家」事務局長）

完璧な人間（そんなものはないのですが）から最重度の障がい者（こんなものもありませんが）という区分が仮にあったとしたら、障がい者の境界線はどこなのか？「そんなものはありません」「障がい者というものは人によってつくられたもので、生まれたことで、その人は100%なのだ」。

誰もが、地域で自立した生活を望んでいます。まずは、お互いが知り合いになり、声を掛け合う関係づくりが大切。ここからがスタートなのだ、高石先生は話されました。



第4日目 地域福祉とボランティア活動

藤川征典氏（飯塚市社協地域福祉推進課長補佐）

飯塚市での取り組みを紹介していただきました。地域での住民活動もボランティア活動であり、見守りや声かけが実施されており、このような地域のつながり・助け合い活動が、誰もが安心して暮らせる地域の基盤となっていました。また、その活動で発見された課題を、校区単位でつくられたネットワーク委員会により、専門家や地域の福祉力により解決する仕組みが確立されていました。

最後には、災害救援ボランティアセンターについて、本町商店街の火災や今年7月の水害時のことを話されました。特に、7月の水害では、企業・学生・各種団体・個人と1000人以上のボランティアが活躍されたとのことでした。